

地域に根ざした水再生センターの広報活動

横浜市環境創造局北部第一水再生センター ○神田 修太

1. 概要

東京都町田市を水源として、横浜市鶴見区より東京湾へと注いでいる鶴見川は、大雨時にはしばしば洪水・氾濫を引き起こす「暴れ川」として知られる歴史を持ち、周辺地域は長年洪水に悩まされてきた。そのため、国や横浜市を含めた流域自治体と地域が一体となって治水対策を行っており、古くからの地域住民は、治水対策の歴史や水再生センター等に対する知識や理解も深い。しかし、近年の人口構造の変化により、その状況も変化している。水再生センター等の運用には、地域住民の理解や協力は不可欠であり、長年地域ニーズに合わせた見学会や地域イベントへの出展等、多様な協働イベントを積極的に展開している。本論文では、横浜市環境創造局北部第一水再生センター（以下北部第一C）の広報活動への取組みと効果について報告する。

2. 北部第一Cについて

横浜市では、昭和37年に最初の終末処理場として中部下水処理場（現：中部水再生センター）が稼働して以来、現在では11か所の水再生センターで水処理、2か所の汚泥資源化センターで汚泥の集約処理を実施しており、26か所の汚水中継・雨水排水ポンプ場を有している。また、下水道普及率についてもほぼ100%に達している。

北部第一Cは、鶴見川流域に位置し鶴見区北西部と港北区の一部を排水区域とする、昭和43年7月より運用を開始した市内で3番目に古い水再生センターである。横浜市内における鶴見川流域は大半が低地のため、ポンプ排水が不可欠であり、市内水再生センターで最多となる8か所のポンプ場と4か所の地下ポンプ施設を所管している（図-1、表-1）。また、平成24年度より雨水貯留管である新羽末広幹線が運用を開始する等、時間最大約60ミリの降雨量に対応できるような施設の整備を進めている。

表-1. 北部第一C所管ポンプ場

ポンプ場	計画排水能力 (m ³ /分)	運用開始
末吉ポンプ場	625.8	昭和39年3月
北綱島ポンプ場	1989	昭和47年5月
樽町ポンプ場	2774.2	昭和42年4月
江ヶ崎ポンプ場	960	平成3年11月
上末吉ポンプ場	792	昭和62年3月
高田ポンプ場	2025	昭和60年3月
綱島第二ポンプ場	67.2	昭和36年7月
南綱島ポンプ場	64.2	昭和33年2月



図-1. 北部第一C排水区域

3. 近年における流域人口構造の変化

鶴見川流域は近年、都心に近い立地が注目され、工場跡地に集合住宅等の建設が進みそこに新しく居住する若年層が増加傾向にある。統計⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾においても、平成12年以降転入者数が転出者数を上回る傾向が続いている。また、横浜市における行政区別平均年齢では、鶴見川流域に属する都筑区、港北区、鶴見区がそれぞれ年齢の低い順に1位、2位、4位であり、比較的若年層が多い構成となっている。この傾向は今後も

続くと思われ、鶴見川流域の治水に関するこれまでの歴史や知識、下水道施設の役割を知らない住民が増加していくことが予想される。このため、効果的な広報活動を継続的に実施する必要がある。

4. 広報活動事例の紹介

(1) 地域のイベントへの出展（「三ツ池公園（文化・環境）フェスティバル」における広報活動）

（図-2）

横浜市鶴見区の神奈川県立三ツ池公園では三ツ池公園（文化・環境）フェスティバル実行委員会を主催とし、毎年5月に「三ツ池公園（文化・環境）フェスティバル」が開催されており、平成29年度には約45,000人が訪れるなど、地域における一大イベントとなっている。そのため、水再生センターおよび排水施設の存在や役割を地域住民の方々に知ってもらうことを目的として、展示ブースを設置し下水道の広報活動を実施している。展示ブースでは、鶴見川流域における浸水被害の歴史やポンプ場・水再生センターの設備、水処理の仕組み、新羽末広幹線の役割等についての説明のほか、下水道に関する各種パンフレットの配布や顕微鏡を用いた微生物の観察、横浜市環境創造局のマスコット「かぼのだいちゃん」の着ぐるみによる子供達とのふれあい等、幅広い年齢層に向けて下水道事業の知識が楽しく学べるように工夫している。今年度で21回目の参加となり、ブースには例年300人以上の参加者が訪れている。



図-2. 展示ブースの様子

(2) 民間施設とのコラボ見学会の実施（図-3）

北部第一Cの鶴見川の対岸にある森永製菓（株）鶴見工場と毎年協働で地域住民を対象としたコラボ見学会を実施している。参加者の募集については、センター周辺の地元町内会に依頼し、スケジュール調整や運営を北部第一Cで実施している。内容は、午前中にセンターのポンプ設備や水処理設備、中央監視設備を見学し、午後は森永製菓の工場で、チョコレート等の製造工程の見学や試食を実施している。平成29年12月に実施した見学会では38名が参加し、下水道の役割と食を通じた「ものづくり」についての理解を深めていただいた。



図-3. 森永製菓（株）鶴見工場（左上）と北部第一C（右下）

(3) ポンプ場見学会の実施（図-4）

ポンプ場は降雨時に町を浸水から守るために不可欠な施設である一方、その役割が日常生活の中で地域住民の方々の目にふれる機会が少ない。そこで、ポンプ場の設備に関心を持ち、役割を理解していただくため、北部第一Cでは、毎年ポンプ場見学会を実施している。実施にあたっては、管轄している鶴見川下流域に点在するポンプ場の中から、地域の方々の関心の高さや施設の稼働状況等を考慮し、毎年1か所のポンプ場を選定している。



図-4. ポンプ場見学会の様子

所管ポンプ場の数が多く、毎年異なるポンプ場での開催している性質上、見学設備や説明内容の共通化を行うことにより、開催ポンプ場による説明内容の差異の低減や担当者の負担軽減を図っている。また、より市民の方々が理解しやすいよう、毎回アンケート結果を反映し説明資料の見直し等を行っている。

過去3年間の実績としては、高田ポンプ場（平成27年度）、上末吉ポンプ場（平成28年度）、樽町ポンプ場（平成29年度）で実施している。平成30年2月に横浜市港北区の樽町ポンプ場で実施した見学会で

は、近隣の住民 19 名が参加し、ポンプ場の役割やポンプ設備、自家発電機設備の説明を行なった。

(4)その他の広報活動

その他、環境創造局下水道施設部全体の下水道広報活動として、市内の親子を対象として夏休みに横浜市営地下鉄の車両基地や横浜市立よこはま動物園（ズーラシア）等の施設と水再生センターを見学する「親子の下水道教室」の実施や、ウォーキングをしながら下水道の知識を深めることができる「水再生センターをだいちんとめぐるウォーキングマップ」の作成等を行なっている。

5. 考察

北部第一 C において企画・実施した広報活動における過去 3 年間のアンケート結果をそれぞれ図-5、図-6、図-7 に示す。

図-5 は各種イベント参加者の年齢層の分布を表したものである。結果は、60 代以上の参加者が目立ち、50 代以下は合計で 34% 程度であった。理由としては、ポンプ場見学会は休日に開催したが、森永工場とのコラボ見学会の開催日が平日のみであった点が考えられる。また、地域の町内会主体で参加者の募集をしたが、若年層が多いマンション等の住民に浸透するまで十分な情報提供を行なうことができなかった点等が影響したと考えられる。

図-6 は、ポンプ場見学会参加者に対して、ポンプ場の役割についての認知度を調査した結果である。見学会では、長年地域に住んでいる参加者も多く、ポンプ場の役割についてもご存じの方が多かった結果となった。そのため、見学会では河川整備やポンプ場稼働前後の変化を知る参加者が知らない参加者に説明する場面がみられる等、市民同士による情報共有の場としての効果があることについても確認することができた。

満足度については、図-7 の通り、それぞれのイベントにおいて非常に高い割合で満足しているとの回答が得られ、また見学会においては直接日頃の維持管理に対し感謝の言葉をいただく等、イベント開催による参加者に対する PR 効果は高いものであったと思われる。

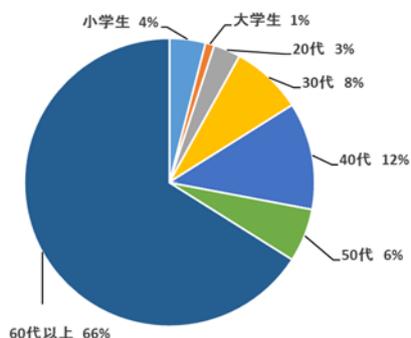


図-5. 参加者の年齢層

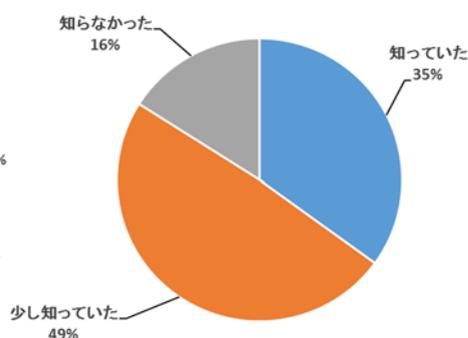


図-6. ポンプ場の役割について

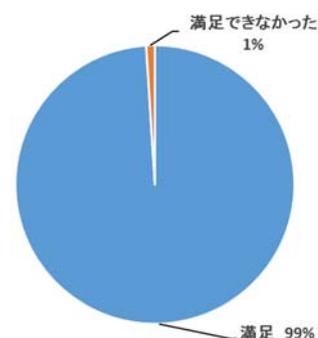


図-7. 見学後の満足度

6. 最後に

各広報活動においては、職員対住民だけでなく、住民同士での情報共有の場としての役割を持つことが確認できた。また、それぞれ広報活動による満足度も高いことから、各種広報活動は継続的に実施し、治水や排水施設についての関心を持ってもらえるような機会を提供し続けていくことが重要である。また、新規転入者や若年層へのさらなる広報活動は課題であり、今後は広報活動に対して多くの人に認知、参加してもらいやすい新たな形の広報活動についての模索を行っていききたい。

参考

- (1)横浜市鶴見区役所総務課統計選挙係発行「平成 29 年度版 発見つるみ! ～データでみる鶴見区～」
- (2)横浜市都筑区役所総務課発行「2017 (平成 29 年度版) 都筑区統計要覧」
- (3)横浜市港北区統計情報 URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/soumu/toukeitop.html>

問合せ先：横浜市環境創造局北部第一水再生センター 住所：神奈川県横浜市鶴見区元宮二丁目 6 番 1 号

TEL:045-572-2281

Email:ks-hokubu1wtp@city.yokohama.jp